

令和5年度第2回 旧西尾家住宅修理専門会議 発言要旨

1 日時

令和5年9月5日（火）午前9時30分から正午まで

2 場所

吹田市立内本町コミュニティセンター

3 出席者（敬称略）

【委員】足立、日向、藤田、瀧野、前川、橋寺

【文化庁】文化資源活用課 石田

【大阪府】文化財保護課 萩原

【工事監理者】建築研究協会 野々部、辻、伊藤、宅間

【工事施工者】中島工務店 鳴海、川里

【吹田市】文化財保護課 葉山、坂原、立岡

4 議題

重文 旧西尾家住宅主屋ほか6棟建造物保存修理工事（I期工事）について

- ・工事進捗状況報告
- ・主屋の構造補強について

5 主な発言要旨

○主屋の構造補強に関して

- ・今の耐震補強案では、建築基準法の基準を上回る地震動が来たときに、結構な倒壊のリスクを持っている。文化財の価値を損ねない程度の補強をどこまで許容するか、決断が必要。
- ・中の間南の鉄骨は、縁座敷のままではあまり支障がないかもしれないが、元の状態を考えると、ここに実は簀子と手水鉢があり、座敷でお茶をするときには通路となるため、支障となるかもしれない。
- ・仏間は大事な場所なので出来るだけ綺麗な状態で残したいと思うが、仏間に相当部分負担してもらうのもありかなと思う。
- ・建物が一気に崩壊することを防ぐ、もしくは万が一崩壊したとしても中に安全な空間を作ることを期待するという意味では、建物の真ん中部分にコア的なものを置くのはすごく良いことだと思う。
- ・当初の階段部分に補強のための鉄骨を入れるのは残念な気がする。
- ・文化財のことを考えると何も入れないというのが一番いいが、管理団体であり事業者である吹田市が公共施設として公開していくという中で、入ってくる人の安全を守る必要がある。これからこの建物の価値を考えていく際に、細かいところも踏まえて検討を重ねていって、最後はある程度妥協する必要がある部分もあるのかなと感じている。

○復元時の時代設定に関して

- ・今回の修理の中で、オリジナルに戻すのか、時代ごとの修理を残していくのか議論が必要。そこに残存率に関係してくるので、全体として材料の残存率はどれくらいかパーツ分けして報告してほしい。
- ・この建物を建てる時に、ある程度は前身建物に縛られながら建築されているはずであるので、変遷を検討するにあたり、オリジナルの建物の図を示してほしい。
- ・主要材だけで構わないので、部位レベルまで落とし込んだ建物履歴の整理をしてもらおうと、もう少し進んだ議論ができると思う。
- ・個人的には主屋が濡縁だった頃に設定するのがよいのではないかと考えている。昭和の頃の縁座敷も魅力的だが、濡縁は日本建築の本来の生活空間、在り方みたいなどころで言うところのすごく大事なものの。
- ・理想としては敷地全体で、こういう設定年代で、その姿に復元するというのが一番いい。今の状態でわかる範囲で、部位レベルと敷地全体、両方を見ながら、最終判断していけたらいいのかなと思う。
- ・この建物の場合、非常に段階的に変化してきているので、ある時代に収束させるという考え方ではなくて、ある時代に行われた改造が、意味があるのかなのかということが重要な観点になってくると思う。